

知り合う

友だちや家族、チームメイトなどと、一緒に働いたり遊んだりしていて、まるで息がぴったり合っていると感じたことを思い出してください。そのときはどんな気持ちでしたか？

聖句　ヨハネの手紙一 1:1-4（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたもの、すなわち、命の言について。
2 この命は現れました。御父と共にあったが、私たちに現れたこの永遠の命を、私たちは見て、あなたがたに証しし、告げ知らせるのです。
3 私たちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせるのは、あなたがたも、私たちとの交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。
4 私たちがこれらのことを書くのは、私たちの喜びが満ち溢れるようになるためです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか?

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. ヨハネは『聞いた』『目で見た』『よく見た』『手で触れた』(1～２節）という言葉を繰り返し用いています。なぜ彼や使徒たちが“いのちのことば”であるイエスと実際に、目に見え、耳で聞き、手で触れるという現実的で肉体的な体験をしたことを、これほど強調しているのでしょうか？

2. 3節によると、使徒たちのメッセージを信じることと、『父と御子との交わり』を持つことには、どのようなつながりがあるのでしょうか？ヨハネは何を伝えようとしているのでしょうか？

3. 「フェローシップ（交わり）」という言葉は『共に分かち合うこと』という意味です。説教に基づいて考えると、神と交わりを持つとは、実際にはどういうことを意味するのでしょうか？

4. ヨハネが手紙を書いた理由は『あなたがたの喜びが満ちあふれるため』（4節）です。では、神との交わりや他の信者との交わりは、どのようにして完全な喜びにつながるのでしょうか？

分かち合い

話し合い　その1

武牧師は、神との交わりをテックサポートに従うことにたとえて説明しました。私たちは神を信頼しているゆえに、その御言葉に従います。このことは、あなたの日々のQT（静かな祈りと聖書の時間）への取り組み方に、どのような挑戦や変化をもたらすでしょうか。

話し合い　その2

説教では、霊的成長とは『ますます父なる神に依存するようになること』だと語られていました。あなたの人生の中で、最も自分だけでやりやすく、逆に神に完全に頼るのが一番難しい分野はどこでしょうか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。